

(4) アルコール依存症者が受けるソーシャルサポートの程度と効果の認識に関する研究

川崎医療福祉大学大学院 医療福祉学専攻修士課程 ○吉川 輝

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 長崎 和則

【要 旨】

1. はじめに

日本にはアルコール依存症者が約82万人いると推定されているが、専門治療を受けているのは約2万人に留まっている。従来の依存症専門治療での退院後の治療は断酒の3本柱と言われており、回復率は20～30%を推移している。近年ではアメリカのMatrix Modelを参考にした外来治療プログラムが導入されているが、回復率は従来と同様である。専門治療の変化はあるが、回復率の向上には繋がっていない。このため、これまであまり着目されなかった家族等からのサポートに着目する必要がある。

2. 目的

先行研究レビューでアルコール依存症の退院後の治療に関して家族等のサポートを検索した結果、ここに焦点を当てた研究はほとんど見られなかった。本研究では断酒をしている人を取り巻く家族等のソーシャルサポートがどのような状況であるのかを明らかにした。

3. 対象と方法

A 県内断酒会参加者98人を対象に配票調査法と

し、質問紙による調査を実施。69人の回答を得た。ペアワイズによる欠損値の除去を行い、全てを有効回答とした。SPSS (Ver.19) を使用し、記述統計を作成した。ソーシャルサポートの項目についてはクロス集計を作成し、主にカイ二乗検定を用い、カッパ係数を用いて分析を行った。

4. 結果及び考察

断酒会参加者の基本情報として、過去の調査と比較すると高年齢化が見られた。平均入院回数2.51回であった。アルコール依存症者の受ける手段的サポートと情緒的サポートの分析を実施した。過去の時点でサポートの受け入れ程度が高く、効果の認識が高かった。現在ではサポートの受け入れ程度が高く、効果の認識が高かった。また、 κ 係数での分析により、一致度が高かった。過去と現在の比較では、サポートの受け入れ程度が高かった群は継続して高く、低かった群は高く変化していた。過去の時点でサポートの受け入れ程度が高かったということは、既に医療機関と家族のサポートを受けていたということである。